

(個人用)

行政視察等報告書（個人用）

令和6年10月16日

知立市議会議員 様

報 告 者	那須幸子
日 時	令和6年10月9日・10日
視察（研修）場所	トーサイクラシックホール岩手
目 的	全国市議会議長会研究フォーラム

大会テーマ「主権者教育の新たな展開」

～1日目～

【パネルディスカッション】
〈地方議会の課題と主権者教育〉

■コーディネーター
井柳 美紀 氏（静岡大学人文社会科学部法学科教授）

■パネリスト
土山希美枝 氏（法政大学法学部教授）
越智 大貴 氏（一般社団法人WONDER EDUCATION 代表理事）
渡辺 嘉久 氏（読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局）
遠藤 政幸 氏（盛岡市議会議員）

◆コーディネーター
井柳氏

議長会による主権者教育の推進について

- 地方議会の課題
 - ・投票率の低下
 - ・無投票当選の増加
 - ・議員の性別や年齢構成の偏り

◦議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育の推進

◆パネリスト

土山 希美枝氏 *「誰がための主権者教育」

◦市民と議会の間にあるもの、若者と社会の間にあるもの

・議会と市民の間にある「へだたり」

議会が何をしているか

議員が何をしているか

理解度に関する調査

◦議会は主権者教育の「主体」

・議会は「教育」として何を行えるか

すべての子ども・若者に同じ機会を提供するのか

だれが対象で、どんな能力をどんな手法で、育成するか

◦議会と子ども・若者たち・教育機関との関係のなかでの主権者教育という機能は

・なぜ「高校生議会」の取り組みは広がるのか

議会にとっては若き市民の社会参加を得る事が必要

・「学び合う」という機能を議会という場で発揮する

・子ども・若者のための議会と学校の連携

◦議会は何をなすべきか

・どれほどの資源を用意するのか、議会の本来の機能にとってどのような意味をもたせるのか、それぞれの現場で確認を

◎議会にとっての高校生議会とは何か。

「若き市民の市民参加」を議会が得る機会。現実にはすべての高校生はもうまもなく選挙権を持つプレ市民、あるいはすでに選挙権をもった成人。「若き市民の市民参加」が議会にとって重要。

越智 大貴氏 *若者の政治・社会への意識から考える主権者教育の

必要性

—13年間の主権者教育の取り組みを通して—

◦若者は、政治や社会をどう捉えているのか

日本財団が実施する「18歳意識調査(2024)」と WonderEducation が実施した調査の結果

- ・若者は、関心がないわけではなく、参加しても意味ないと思っている
- ・議会の役割は
交流の機会を増やし、「自分の意見が聞いてもらえる」又「自分のアイデアが反映されるかも」と感じられる機会を増やす

◦学校現場における主権者教育の現状

- ・政治的中立の過度な配慮があるが、学校が悪いわけではない
- ・議会の役割は
学校でもリアルな政治が扱いやすいような環境をつくる

◦13年間の主権者教育の取り組みについて

- ・WE CITY：こどものまち
仮想のよのなかづくりを、異世代の交流や学びあいを大事にしながら体験する
- ・こどもワークショップ：こどもの意見表明
社会の課題についてワークショップをする
実際に行政の政策に反映してもらう
- ・こども議会：議員との交流会
議員の仕事について、フリートークなどキャリア教育要素を入れた学びの場

◎政治家との交流は、子どもたちの政治意識の醸成に大きく影響する

渡辺 嘉久氏 *人口減少社会の未来

- 人口減の未来はどうなる
 - ・社会保障費の増大→現役世代の負担増
 - ・積極財政のつけ
 - ・借金依存の財政
 - ・かさむインフラ維持・管理費
- 情報が未来を左右する
 - ・未来を決めるのに必要な情報をもっているか
 - ・その情報は正しいか
- 「政治とつながる」とは
 - ・政治とつながる＝未来とつながる
 - 政治を考える＝未来を考える

◎自分の未来を創造する

どういう未来を生きたいか理想の未来は

「こうありたい」という未来のために、何が必要か考える機会をもつ

遠藤 政幸氏 *盛岡市議会の取組み

盛岡市議会が取り組む主権者教育

◦盛岡市議会 高校生議会

- ・平成 28 年 12 月～ 高校生議会開催の検討（議会運営委員会）

: 議会による主権者教育として、高校生が議会を経験する機会を設けたい

: 議員にとっても刺激を得る機会としたい

- ・平成 29 年 7 月～ 盛岡市議会高校生議会(第 1 回)開催

- ・令和 4 年 第 4 回

◦開催目的

- ・次代を担う高校生が選挙及び政治並びに身近な地方行政への関心を高めること

◦開催に当たっての考え方

- ・盛岡市議会として主権者教育に取り組むものであること
- ・議会の役割を理解し、市の施策を身近に感じる機会であること
- ・議員が高校生と直接交流する場であること

◎参加者の声 政治に関心を持った
議会の役割が理解できた

～ 2 日目～

【課題討議】

〈主権者教育の取組報告〉

■コーディネーター

河村 和徳 氏（東北大学大学院情報科学研究科准教授）

■事例報告者

白鳥 敏明 氏（伊那市議会前議長）

諸岡 覚 氏（四日市市議会議員 第 83 代議長）

服部 香代 氏（山鹿市議会議長）

◆コーディネーター

河村 氏 *地方議会と主権者教育

◦理想と現実

〈理想〉

- ・主権者教育は、基本的にシチズンシップ教育であるべき
- ・地域の社会的課題を自ら認識し、経験を含めた形で社会を改善していく力を養う方向に持っていくべき

〈現実〉

- ・知識の享受が中心
- ・投票者重視の教育

◦選挙権年齢の18歳引き下げの論点

- ・知識の提供だけでなく、実践の場の提供も必要

◦選挙と選挙後の連続性を理解させる必要

- ・地方自治は民主主義の学校
 - ・選挙の意義、議会の意義など実践を通じて学ぶこと
 - ・政治的社会化、政治的な有効性の理解を深めること

◦政治に参加する方法

- ・政治に参加する方法は選挙ばかりではない
 - ・署名、選挙で投票する
 - ・団体をつくり、社会に働きかける
 - ・陳情活動

◎議員と会うだけでも意味がある

子どもたちにとって議員と会うことは、普段接している大人と違う場として機能する

◆事例報告者

白鳥 敏明 氏 *高校生の議会傍聴と意見交換会の取組

◦経緯

- ・平成30年の市議会議員選挙が無投票当選に議員のなり手不足に危機感を抱く

↓

全議員参加の「魅力ある議会づくり検討会」を設置

開かれた議会を目指し、議会改革の一環として実施



議会への関心を高めるための方策として

若い世代、特に高校生に議会への関心を高めてもらうために、高校生の議会傍聴、高校生との意見交換の企画を決定

◦取り組み

- ・市内 4 校の議会傍聴と意見交換会(学校訪問・議場)の実施
令和元年 6 月～実施（令和 2・3 年度はコロナのため中止）

◦成果

- ・高校生からの意見・提案
- ・高校生による請願の提出
- ・高校生からの要望を執行部へ

◦課題 〈高校生からの意見より〉

- ・議会は SNS をもっと活用すべき
- ・議員のアピール
- ・意見交換会の定期的な実施

諸岡 覚氏 ＊あなたと議会をつなぐ

◦「ワイ！ワイ！GIKAI」開催までの流れ ①

～議会が学校に働き掛けて開催した事例～

令和 5 年 9 月 委員会で中学校を対象とする事を決定
令和 5 年 10 月 校長会役員会で企画を説明・開催校決定
令和 5 年 11 月 学校訪問し打ち合わせ
令和 5 年 11 月 27 日 開催

◦「ワイ！ワイ！GIKAI」開催までの流れ ②

～学校から申し込みを受けて開催した～

令和 5 年 9 月 学校から申し込み
令和 5 年 11 月 学校を訪問し、企画内容の打ち合わせ
令和 6 年 1 月 12 日 開催

◦今後の展望

将来的には制限を設けず、幅広い対象との交流を目指す

服部 香代 氏 *山鹿市が取り組んだシチズンシップ教室

◦課題

- ・開かれた議会になっていない
- ・住民の理解と関心が得られていない
- ・なり手不足

◦企画～実施まで

- ・教育長・全議員へ提案
- ・校長会に協力依頼
- ・議員と資料検討・作成
- ・各学校の担当を希望により決定

◎子どもたちの感想

- ・一票がどれだけ大事で、選んだ人によってどんな未来になるのかが変わることを知り投票の大切さを知れた
- ・議員がどんな仕事なのかわかった
- ・みなさんがされている仕事がしてみたいと思った

〈所感〉

今回の第 19 回全国市議会議長会研究フォーラムは、「主権者教育の新たな展開」のテーマで岩手県盛岡市での開催でした。

1 日目は元総理大臣の菅氏のビデオメッセージがあり、パネルディスカッションでは「地方議会の課題と主権者教育」について議論が交わされました。

2 日目は「主権者教育の取組報告」があり伊那市議会、四日市市議会、山鹿市議会が行なっている主権者教育の実例を高校生からの感想も交え報告がありました。高校生による模擬投票なども実施し、議会での意見交換会も活発に行われそこの高校生の意見も活用され、高校生による請願提出なども行なわれた実例などリアルな体験の重要性を再認識いたしました。

開催地の盛岡市は次代を担う高校生に選挙や政治、また、身近な地方行政への関心を高めることを目的として、平成 29 年 7 月 27 日にはじめて開催されました。令和 4 年度には 3 校が参加され総勢 32 人が高校生議員として参加し「住み続けたくなるまち 盛岡市をめざして」を議題として、詳しく協議するため、4 つの委員会へ付託し、委員会のテーマに沿った内容を検討し意見をまとめ発表しており、大変貴重な話を伺いました。

知立市議会も、高校生議会について選挙年齢の引き下げにより政治や選挙が身近なものとなった高校生に、議会活動を体験してもらい、地方自治への

関心を高めてもらうとともに、高校生の視点から広くまちづくりについての意見を聴き協議する機会を設けることを目的として、令和3年より市内の高校が参加し開催しています。令和5年の第3回は今回のパネリストであられる土山教授にファシリテーターとしてご参加いただき、アドバイスを頂きながら実施しました。今年度で4回目になりますが、「若き市民の市民参加」が議会にとって重要。との土山教授の話を通し、今回の研修でうけた実例を参考に、高校生に議会活動の体験を通して政治や選挙に関心を高めてもらえるよう高校生議会に活かし実りあるものにしていきたいと感じました。

【所感、知立市政への反映に向けた課題等】

※報告書は視察（研修）場所ごとに作成してください。
報告書は視察（研修）終了後1週間以内に提出してください。